

## 追加のステータスコード

デフォルトでは、**FastAPI** は `JSONResponse` を使ってレスポンスを返します。その `JSONResponse` の中には、*path operation* が返した内容が入ります。

それは、デフォルトのステータスコードか、*path operation* でセットしたものを利用します。

## 追加のステータスコード

メインのステータスコードとは別に、他のステータスコードを返したい場合は、`Response` (`JSONResponse` など) に追加のステータスコードを設定して直接返します。

例えば、itemを更新し、成功した場合は200 "OK"のHTTPステータスコードを返す *path operation* を作りたいとします。

しかし、新しいitemも許可したいです。itemが存在しない場合は、それらを作成して201 "Created"を返します。

これを達成するには、`JSONResponse` をインポートし、`status_code` を設定して直接内容を返します。

```
{!../../../docs_src/additional_status_codes/tutorial001.py!}
```

!!! warning "注意" 上記の例のように `Response` を明示的に返す場合、それは直接返されます。

モデルなどはシリアライズされません。

必要なデータが含まれていることや、値が有効なJSONであること (``JSONResponse`` を使う場合) を確認してください。

!!! note "技術詳細" `from starlette.responses import JSONResponse` を利用することもできます。

**\*\*FastAPI\*\*** は ``fastapi.responses`` と同じ ``starlette.responses`` を、開発者の利便性のために提供しています。しかし有効なレスポンスはほとんどStarletteから来ています。 ``status`` についても同じです。

## OpenAPIとAPIドキュメント

ステータスコードとレスポンスを直接返す場合、それらはOpenAPIスキーマ (APIドキュメント) には含まれません。なぜなら、FastAPIは何が返されるのか事前に知ることができないからです。

しかし、[Additional Responses](#){internal-link target=\_blank} を使ってコードの中にドキュメントを書くことができます。